

- 中干し後のほ場は、今後、葉色の急激な低下を防ぐため、**間断かん水**を励行し、ほ場の乾きすぎに注意しましょう。
- 早生の穂肥は、**必ずほ場ごとに、幼穂長・葉色・茎数等の生育状況を確認し、適切に施用**しましょう。
- 梅雨期に入り、葉もち感染好適日の出現が予想されます。苗箱施薬を施用していないほ場や直播栽培のほ場では、**いもち病の予防粒剤を早急に散布**しましょう。

1. 早生の穂肥は適切に施用（分施の場合）

【営農日誌 P33～36、62、70参照】

【肥効調節型基肥施用ほ場の場合】

原則、追肥の必要はありませんが、幼穂形成期頃の葉色が4.0を下回る場合は、指導機関へ相談ください。また、出穂7日前頃に、葉色が4.0(砂壤土 4.2)以下と薄い場合は、出穂3日前までに7kg/10a(窒素成分で1kg/10a)以内の追肥を行いましょ。

【分施ほ場の場合】 ○となみ野穂肥535(15-3-15) による標準施用量

(1) 1回目の穂肥

品 種	1 回 目 の 穂 肥			
	幼穂長	葉 色	施用量	施用時期(目安) ※4月29日田植え
てんたかく	1mm	4.0~4.5	10~12kg/10a	6月26日~29日頃

注)葉色が4.5を超える場合や茎数が550本/m²以上と多い場合は、1回目の施用時期を遅らせるか、または、施用量を減らしましょう。

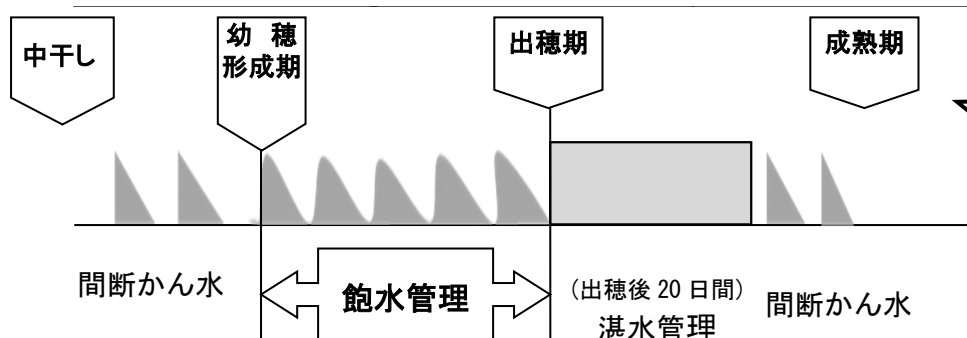
(2) 2回目、3回目の穂肥

穂 肥	土 壤 区 分	施用量	施 用 時 期
2回目	全 ほ 場	10kg/10a	1回目穂肥施用の7~10日後頃
3回目	浅いほ場・普通田	10kg/10a	2回目穂肥施用の7日後頃 ※施肥量は地力等に応じて加減してください。
	深いほ場・中山間	7kg/10a	

2. 中干し後は、『間断かん水』で根の活力を保持

<早生品種> 幼穂形成期以降は、**飽水管理**に切り替えましょう。

<コシヒカリ・晩生品種> 幼穂形成期まで間断かん水を行い、根に水や酸素を十分に供給しましょう。



**コシヒカリの中干しは
完了していますか？
深いところや、ほ場の中央など…
ほ場に入って確認しましょう！！**

【間断かん水の目安】

乾きやすいほ場 : 1~2日湛水 ⇔ 2~3日落水
乾きにくいほ場 : 1~2日湛水 ⇔ 3~4日落水
※特に乾きにくいほ場や、葉色が濃いほ場は、落水期間を長くしましょう。

【飽水管理の目安】

足跡に水が残る程度に減ったら入水
(ほ場が常に湿っている状態を維持すること。)

3. 畦畔等の除草を徹底し、カメムシの発生しにくい環境づくり

一斉草刈り運動期間：7月1日～10日（7月7、8日は『一斉草刈り日』）

＜麦跡「地力増進作物」の作付け推進＞

【営農日誌 P97～98参照】

麦跡の不作付地は、「斑点米カメムシの繁殖地」となるとともに、「地力も減耗」します。
クロタリア等の地力増進作物を作付けし、雑草の発生を抑制するとともに、土づくりを行いましょう。

地力増進作物	播種量(10a 当たり) (夏播きの場合)
クロタリア	ドリル播: 3～5kg 散播: 4～6kg
ソルゴー	4～ 6kg

◇本年度も土づくり事業(地力増進作物の資材購入に係る助成)を実施します。詳細は営農指導員まで。

【お問い合わせは】

砺波農林振興センター 農業普及課 砺波班 32-8113

となみ野農業協同組合 生産企画課 32-8619 【einoubu@ja-tonamino.or.jp】 (砺波市宮沢町3-11)

営農センター 32-8623

又は、最寄りの統合支店へお問い合わせ下さい。

支店名	TEL.	支店名	TEL.	支店名	TEL.
中央支店	32-3107	北部支店	32-2754	庄西支店	33-4130
庄東支店	37-0047	福野支店	22-3018	井波中央支店	82-1552
稲種センター	82-0117	資材配送センター	32-5440	あぐり館	32-5440

栽培履歴簿の記帳を行うとともに、「農業生産工程管理(GAP)」を確実に実施しましょう！